

学生の学びをサポート enRits

立命館大学enRits実行委員会

活動背景・目標

- 新入生へのサポートが不十分
- 実際にキャンパスに来ていない
→ オンラインでサポートする環境作り

先輩が行う後輩への
相談会・講演イベント等の
多角的なサポート

インタビューの声



生命1回生Rくん

思っていた学生生活とは違う…。
自分が何していいのかわからない

友人がおらず、サークルにも入れていない。不安だ。



食マネ1回生Fさん

※2020年度春学期新入生計36名独自インタビューを行った

団体の活動内容



相談会

- ・「新入生」に対して全般的にサポートを行う
- ・恋愛やその他の相談にも乗る



講演イベント

- ・講演イベントを行う
- ・Dabel, Zoomで行う。
- ・質問等、ディスカッションも出来るように工夫を行った。



情報発信

- ・「新入生」に対して役に立つ情報を発信する
- ・Twitter、Facebookなどで常時配信

コロナ禍での対策



活動制限レベル(BCP)を踏まえ対面かオンラインでの実施か否かを判断する

風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている場合や強いだるさや息苦しさがある場合は**活動日の見直し**、さらには医療機関での**PCR検査**を徹底する

マスクの着用、**アルコール消毒液**を持ち歩き 逐次消毒する

手洗いや咳エチケットの担保、ビニール手袋の着用、**ソーシャルディスタンス**の確保、不要不急な立ち寄りはないことを徹底する

講演イベント①

「恋愛」についてSDGs目線からワークショップを行った。
企画名：恋愛トークショー --持続可能な幸せを考えよう--
10月5,8日(月,木) 22:30 - 23:30(Dabel)

**恋愛
トークショー**

持続可能な幸せを考えよう

第1回
おしえて、あなたの恋愛失敗談！
人生での恋愛の位置づけは？

第2回
恋愛→結婚ってどうなの？
恋愛から考える持続可能な幸せ

10.5 MON
10.8 THU 22:30 - 23:30

Sustainable Week 2020
produced by SUSTAINABLE WEEK

講演イベント②~④

- ②人の助け合いと人間関係の重要性、福祉事業からの知見
- ③多様性のある社会とは？大学生が今考えること
- ④SDGsから考える求められているCSRとは？



相談会

日時：毎週土曜日20:00-21:00開催

場所：Dabel

内容：恋愛を始めとした相談に乗る

Dabel

Il Mondo Gastronomia

➤活動テーマ

- ・人や地域をつなげる存在となり、食文化やその地域ならではの魅力を伝える

➤活動の目的

- ・ 人と人、人と地域の繋がりを作る

フードツーリズムの観点を利用して、人と地域や文化が繋がったりすることで、新しい光の魅力を見出し、地域の活性化を促す

➤ 活動内容

①3回に及ぶオンラインイベントの実施

- ・フードツーリズムに関する理解を深め、地域ならではの食の魅力の発信の仕方について
意見交流を行った。
- ・フードツーリズムに関する説明の動画を作成し、YouTubeにて動画の配信を行った。

②フードツーリズムに関するパンフレットの作成

➤活動の成果

- コロナを踏まえての活動計画が十分では無かったことから、計画する上で活動実行の手順ややるべきことを明確化することの大切さを学んだ。
- 多くの人に向けて発信したい情報を多くの人に受け取ってもらうには、興味をもってもらえるような工夫だけではなく、受け取り手の立場となり発信していくことが重要であると学んだ。

➤ 今後の活動内容 今後のビジョン

- 新型コロナウイルスの流行が収束した際には、今回オンライン上でお話を伺った方に会いに行き、実際に体験してみたいと考えている。
- 活動を通して学んだことを、グループの活動や個人の活動で活かしていきたい。

➤ コロナ禍での活動を通して感じたこと

<オンラインのみでの活動の難しさ>

- ・実際に現地に行くことができないため、現地に行くことでしか得ることのできない情報などを発信することができなかった。

<オンラインを活かした可能性>

- ・オンライン上では、物理的距離などを気にせず、様々な方と交流を図ることができた。

学生団体「滋賀ぎゅっと」P1



学生団体 「滋賀ぎゅっと」

2020年度
学びのコミュニティ集団形成助成金受給団体

学生団体「ぎゅっと滋賀」

2018年夏、「滋賀県の魅力をもっと知ってもらいたい!」という思いを持った食マネジメント学部1期生の学生を中心に結成。

今年度(2020年度)、「滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト企画委員会」から「ぎゅっと滋賀」へ団体名称を変更。

メンバーのほとんど(9人中8人)が滋賀県外出身者で構成されている。

2019年度には「滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」を開催。

昨年度末から今年度にかけて滋賀県の魅力を伝えるため、新たなおみやげ【シガトー】の開発を行い2020年12月に販売。



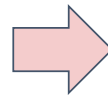
活動テーマ

〔 滋賀県の「新たなお土産」をつくる 〕

地元に帰省するときには、お土産を買って帰ることが多い。
しかし、滋賀県の名産という「丁稚ようかん」や「赤こんにゃく」などであり、
帰省時のお土産として友人に配るのに適した物が少ないことに気がついた。

滋賀県の魅力や特産を盛り込んだお土産を作れば滋賀県の話題にもなる…！！

特産品がお土産として適していない



話題になるような滋賀県のお土産を！

活動目的

〔 滋賀県の魅力を友人に伝え、滋賀県に関心を持ってもらいたい 〕

「滋賀県＝琵琶湖」は誰もが抱く滋賀県のイメージ。

メンバーも滋賀県に住むまではこのように思っていたが、
滋賀で過ごすようになると琵琶湖には湖魚の固有種もあり、歴史も深いと知った。

旅行として滋賀県を選んでもらい、数日間に分けて観光することは難しいかもしれない。
けれど…

滋賀県には隠された魅力がたくさんある。私たちはそれを発信したい。

活動内容

8月

オンラインによる商談

「パッケージ案」「製品」の試作品をメーカーに製作依頼。
メンバーが各自で確認・試食をし、感想を共有ながら検討を重ねる。

10月

対面での商談

企業の方と対面で触感などをその場で共有しながら商談を行った。コンセプトのひとつである「高級感」をアピールするため、パッケージにエンボス加工を施すことはここで決定した。

11月～

販路交渉

何人かのグループに分かれ、「県内道の駅」「おごと温泉」「草津ボストンホテル」など様々な場所を訪れ販売交渉。商品PR用のPOP作成を先方のアドバイスのもと行った。

12月～

製品PR活動

実際に製品が店舗に並んだ後、様々なメディアの取材を受け、記事にいただいた。
(TAP、京都新聞、中日新聞、NHK、KBS京都ほか)

活動の成果

企業からのアドバイスと 自分たちの活動

もっとも印象に残っているのは「今置いてもらえる会社や店舗でいかに手を取ってもらうかに焦点を当てた活動をした方が良い」というアドバイス。

「ひとりでも多くの人に商品を手に取ってもらいたい」という思いが先行して様々な会社や店舗へ商品説明に伺っていたが、**注力する方向を転換するきっかけ**となった言葉だった。

この言葉をきっかけに
ひと目見れば自分たちの
活動の成果であると
わかるようなPOPづくり
をはじめた。



苦勞した点・学んだこと

【商品開発】企業の方との知識や経験の差が大きく根拠を持って意見を伝える難しさを感じた。

【箱内部のデザイン】短い文章でいかに商品の説明と魅力を伝えられるか、文章を考えるのに、たくさんの時間を費やした。

【卸売業者様への取り扱い交渉】交渉のときには商品の良さや置いていただくメリット、他と差別化できる点を伝えたが、成立する業者様もいればご縁のない業者様もいた。商品を取り扱っていただくことは、人同士の関係を築くことが大切であり、こんなにも大変な事なのだと学んだ。

今後の活動

前提として団体の新たなメンバーを集める必要はあるが、

- ・ 今回の製品（シガトー）の販売計画を練ること
- ・ 今回の製品完成の経験を活かして第二回コンテストの開催や新たな製品の開発
- ・ BKCのある滋賀県の魅力の発見・発信に努めること

は積極的に行っていきたい。

また「ぎゅっと滋賀」のメンバーだけでなく、
回りの学生を巻き込んで活動していけたらと思う。



活動纏めスライド

ラオスの米粉プロジェクト

活動テーマ

ラオスにおける米農家の収入向上を目指して：
米粉による付加価値の可能性を探る

米粉料理教室の現地の様子⇒



活動目的

活動の目標⇒意欲のあるラオスの米農家が稲作で収入を得て、各々が抱いている収入向上後の願いが叶うこと。

目的⇒今回の活動では米粉をラオスの人に知ってもらうこと。



活動内容①

試作

● 今回の活動目標

このプロジェクトの主目的である米粉料理教室の進行をスムーズに行うため、事前に試作を行った。

● 実施した活動内容

各自宅で本番作る竜田揚げ、ドーナツ、パンケーキの料理を行った。

● 成果・課題

実際に料理を行うことでレシピ通りの分量だとうまくいかないことやどの料理から作るとスムーズな進行になるか、見やすいカメラの位置などを具体的にすることができた。

活動内容②

オンライン米粉料理教室

●今回の活動の目的

現地のラオス人である坂雲生（学生）を対象にし、ラオスの人に米粉の使い方について知ってもらうこと

●実施した活動内容

各自宅とラオスをズームで繋いでオンライン上で米粉料理教室を行った。坂雲生は日本語を学んでいるが流暢ではないので実際にオンラインで行うことによって作業が目で確認することができ、双方とコミュニケーションをとりながら円滑に行うことができた。作った料理は、パンケーキ、竜田揚げ、ドーナツである。

●成果

実際に試作で行ったもので料理教室を行い、ラオスの学生と交流を図った。オンラインということもあり、コミュニケーションを図るうえで不安な面もあったが、一つの料理を作るうえで自然とコミュニケーションが図れた。「楽しい」などとてもポジティブな意見も聞け、最後に坂雲生からどの料理がおいしかったかなどの感想、改善点などを聞き出し、今後商品開発を検討するにあたって参考になる意見を聞き出せた。

●課題 課題としては、ドーナツが固すぎた点と、分量が日本とラオスで違うので言い間違っ指示を訂正する場面があったので少し混乱を与えてしまった。

活動内容③

S N Sを用いた情報発信

SNS⇒Facebook

アカウント⇒www.facebook.com/laoskomekorits/



料理動画を撮影
英語、ラオス語、日本語で翻訳
Facebookに料理動画を投稿予定

料理動画のレシピ一覧

- うどん（失敗）
- からあげ
- ドリア
- ブラウニー
- マフィン
- 抹茶ケーキ
（カフェからの繰り上げ）
- ガトーショコラ
（カフェからの繰り上げ）

活動の成果

- 試作など⇒日本の米粉とは違うため米粉に適した料理が知れた。

失敗する傾向 { お菓子系。
米粉を多くの分量に使うレシピ。

- オンライン米粉料理教室⇒ラオスの子どもとコミュニケーションを図れた。
ラオスの人の味の好みを知れた。

- Facebookを用いて情報発信を行った。
(現時点では米粉の作り方動画のみ)
(翻訳の都合上動画投稿は3月中旬までに行う。)



今後の活動内容や今後のビジョン

メンバー全員が4回生で就活のため忙しく
今後の活動は未定。

TaBiwa+R 2020年度活動報告



活動テーマ・目的

地域をフィールドに学生のマイプロジェクトを実現し
学生ならではの方法で滋賀の魅力を発信する

今年度のテーマ **Shigaken～滋賀で体験、発見、貢献～**



体験

若者が地域の魅力を**体験**できるきっかけをつくる



発見

新しい時代の観光地としての地域を**発見**



貢献

学生のアイデアや魅力発信で地域活性化に**貢献**

活動内容

Beyond Kitchen CONTEST



活動日: 2020年7月5日

実施形態: オンライン

内容: Beyond Kitchen運営委員会が主催するコンテストに甲賀市との架け橋として参加した。甲賀市の農家さんと連絡を取り、野菜や餅などの特産物をコンテストの材料として提供した。材料は参加者に送られ、斬新なオリジナルレシピの一部として活用された。



成果: コロナウイルス禍でも、家で滋賀県の味を楽しんでもらえるきっかけを作ることができた。また、団体としても甲賀市の農家さんとながりができるなど、新たな出会いがあった。工夫次第で、オンラインでも地域の食を楽しむことができるということが身をもって感じられた。

活動内容

Sustainable Week2020 滋賀Tabiアルバム



活動日: 2020年10月5日～10日

実施形態: オンライン

内容: Sustainable Week実行委員会が主催するSustainable Week2020で企画を行った。外出しづらい状況でも滋賀県の魅力を伝えるために、滋賀県で撮った思い出の写真を募集した。団体メンバーの思い出写真を紹介する事前企画を3日間行い、10/10に本企画としてYouTubeライブを配信した。滋賀を旅するような演出で募集した写真を紹介しつつ、エピソードを紹介した。また滋賀県庁の方などをゲストに迎え、「びわ湖との約束」についても学習した。

成果: 地域団体として、自分たちの活動する地域について改めて考え、写真を見て楽しみながら滋賀県と向かい合う良い機会を設けることができた。

活動内容

TaBiwa Day



活動日：2021年2月6日

実施形態：オンライン

【TaBiwa+Recipe】

内容：滋賀県の味を家でも体験してもらえるように、滋賀県の食材を使ったレシピ発信を行った。TaBiwa+Rメンバーが実際に作った工程を撮影し、SNSに投稿した。

成果：農家さんや企業の方から直接作り方を伺い、またレシピとともにその食材がどこで変えるのかを発信することで、地域食材に興味をもってもらうきっかけを作ることができた。次年度以降も継続して発信できる企画を1つ作ることができた。



活動内容

TaBiwa Day



【フォトコンテスト「Hot Shiga」】

内容: ホットプレイス、ほっとできる場所など「Hot Shiga」をテーマとして写真を募集し、コンテストを開催した。応募作品は団体SNSに掲載し、投票で優秀作品を選定した。

成果: 写真と共にエピソードも募集することで、応募者個人の滋賀県での思い出を知ることができ、これからの企画の参考になった。また新しい広報の形としてSNSの広告を使用するなど、活用法を学習することができた。



【ふるさとワークショップ】

内容: SNSで行ったアンケートをもとに、滋賀県の認識やこれからの企画について団体メンバーが話し合った。

成果: アンケート結果から琵琶湖の認知度を改めて感じるとともに、森林についての発信がもっと必要なことを知った。参加者を集めることに苦戦したため、発信の改善が必要だと学んだ。

活動内容

ふるさとインタビュー



活動日：2020年5月～

実施形態：オンライン

内容：滋賀県で活動しておられる方や団体の方にオンラインでインタビューを行った。今年度は、草津宿場まつり委員会、くさつFarmer'sMarket、甲賀木の駅プロジェクト、NPO法人愛のまちエコ倶楽部の方々にお話を伺い、記事にしてSNSで発信した。



成果：インタビューを行うことで活動内容を知ることはもちろん、地域への向き合い方など自分たちの活動へ活かしていけることを多く学んだ。一方、オンライン取材でのもどかしさも感じ、非対面でもコミュニケーションを上手にとり、正しく伝えることの難しさも知った。

活動内容

やまの健康



活動日：2020年8月～

内容：滋賀県が推進する「やまの健康」で、森林の自然を活かし、維持保全や地域活性化を進めるモデル地域として甲賀市大原地域が選定された。当団体はその中で学生目線として活動に関わらせていただき、森林の楽しみ方や所有者の問題について学習した。

成果：今年度は地域外の人を大原地域の森林に呼んで企画をするということとはかなわなかったものの、団体メンバーが森林の魅力や問題について深く学習することができた。また、地域で行われた円卓会議にも参加させていただき、学生の立場を活かして地域にアイデアを出すことができた。

次年度に向けて

- 2022年度に甲賀市で行われる全国植樹祭に向けて
具体的に地域を盛り上げる
- 今年度関わりきれなかった地域にも積極的にアイデアをだし、
地域との継続的なつながりをもつ
- SNSを効果的に利用しオンライン上での広報を発展させる

立命館大学CLOVER

~見えない障害を見つけ出す~



目次

- 活動テーマ
- 活動目的
- 活動内容
- 活動の成果
- 今後の活動内容や今後のビジョン

活動テーマ

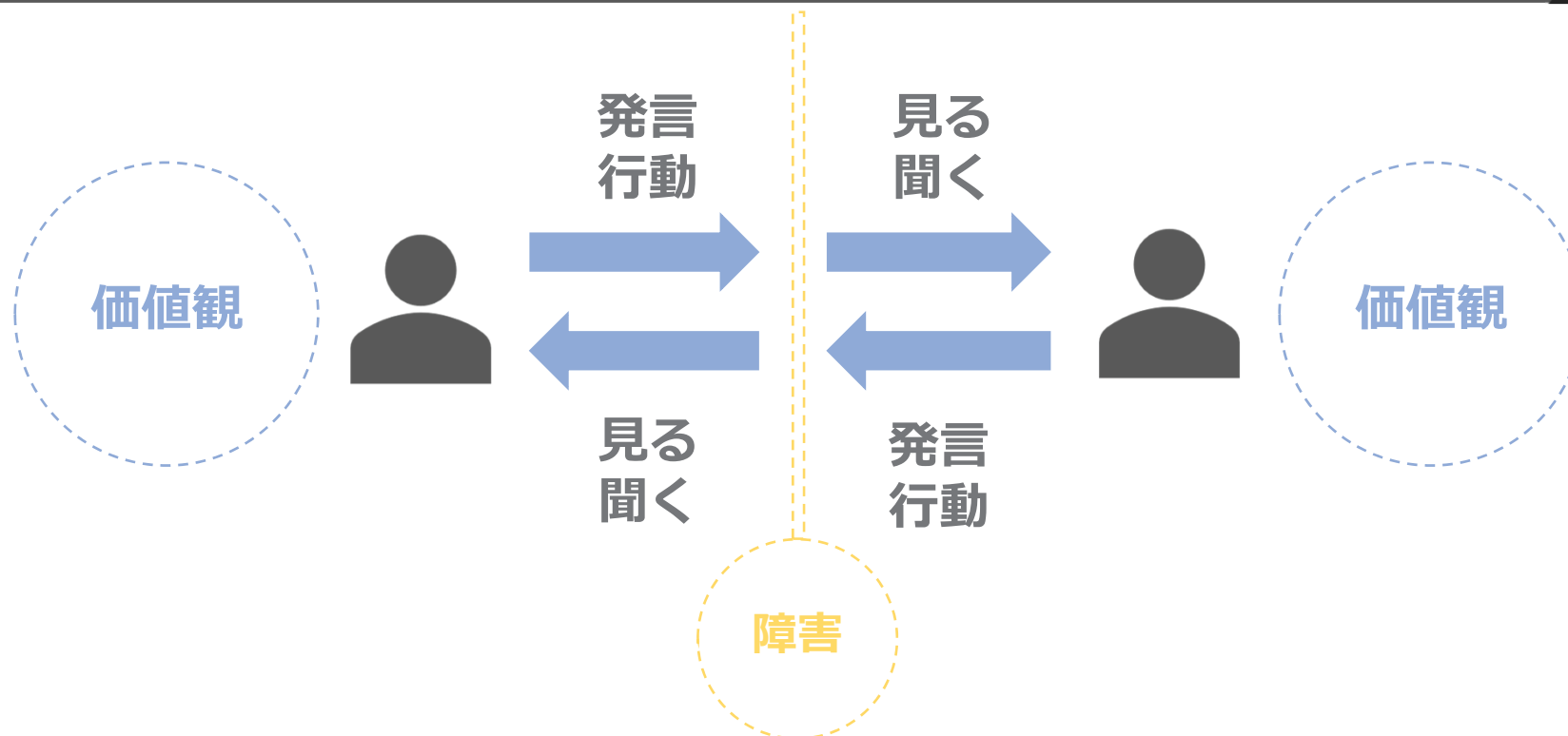
「障害」の壁を越えて人が繋がれる社会を目指して、
新しいアクセシビリティの導入と開発を行う。



団体メンバー

障害を持った家族がいる学生・留学生と一緒に生活している学生・留学生等

活動目的

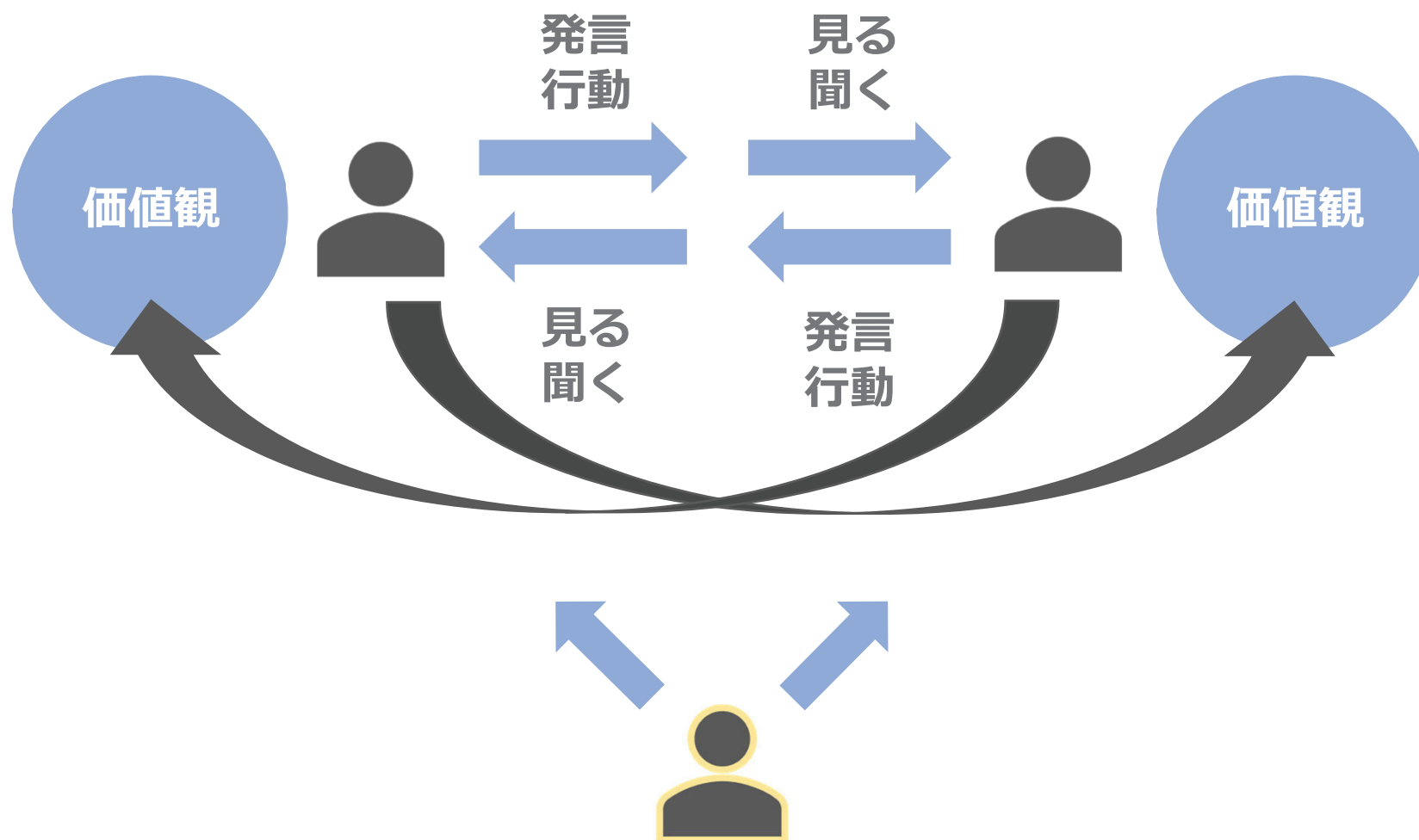


経験・知識・情報は人それぞれ



相手のことを知る・考える

活動目的



リーダーシップ・課題発見力の向上

**勉強会
インタビュー
記事作成**



イベント
参加・運営



学部・学科での 学び促進



活動の成果

活動して得たこと

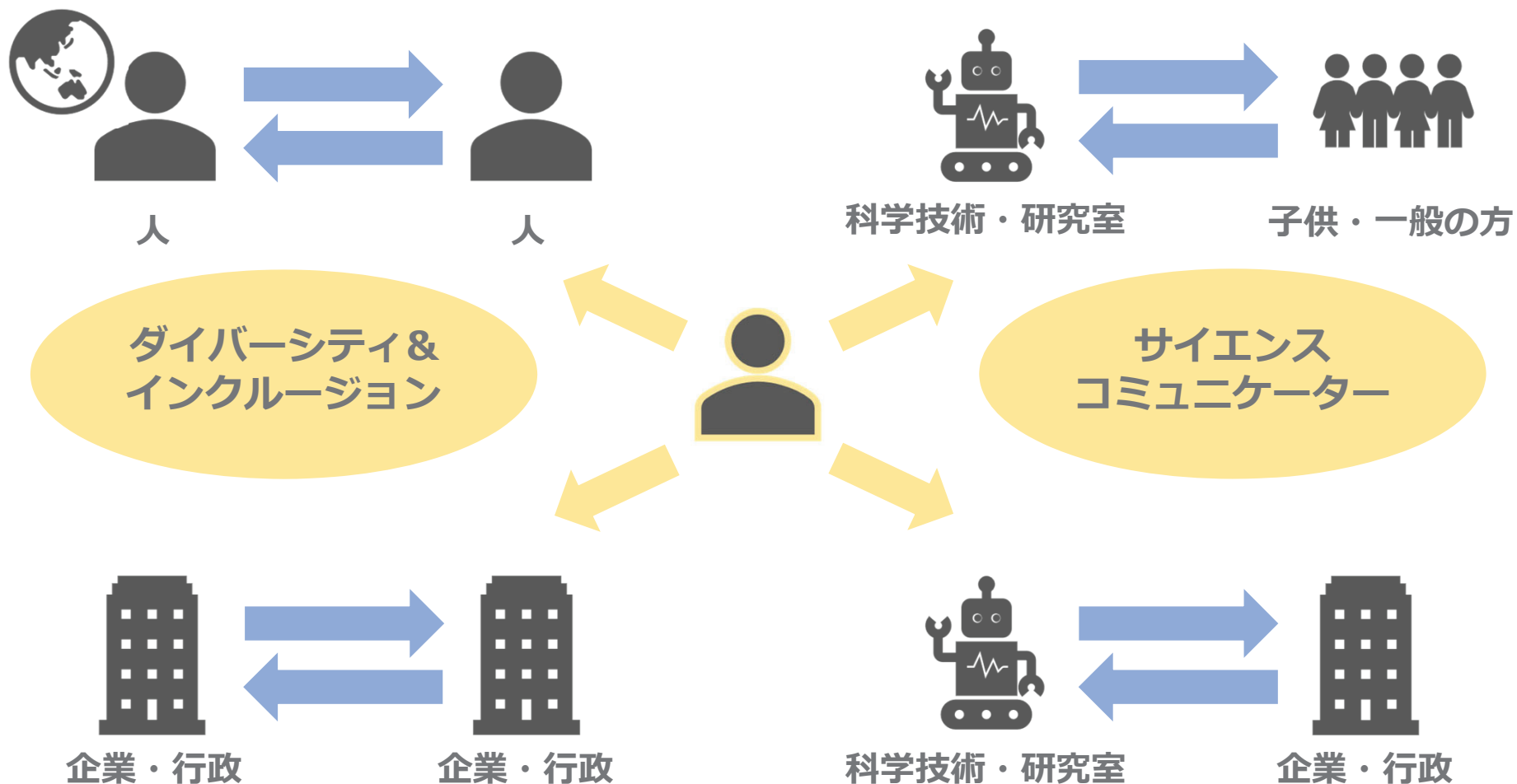
- 相手のことを知り、考え、行動することの重要性
- バックカスティング思考の重要性
- 多様性をどう活かすべきかを考えることの重要性
- アウトプット中心で考えることの重要性
- サイエンスコミュニケーターの重要性

失敗から学んだこと

- 障害に対する固定観念を持たないことの重要性
- 報告・連絡・相談を早くすることの重要性
- 信頼関係を築くことの重要性
- 計画通りにいかなかったときの対処を早くすることの重要性
- 価値観を常に共有することの重要性

今後の活動内容や今後のビジョン

- 相手のことを知り、考え、リーダーシップを取れる人材
- ダイバーシティ&インクルージョンの考え方ができる人材
- 科学技術等を分かりやすく伝えることができる人材



立命館大学CLOVER

~見えない障害を見つけ出す~

